

各地で出張プラネタリウム
糸賀富美男さん(64)

直径3mの星空 どこへでも

埼玉

この人この話

「見上げれば誰でも見えるものだから、もっと多くの人に楽しんでもほしい」

そう語るのは、さいたま市のプラネタリウム「宇宙劇場」元館長の糸賀富美男さん(64)だ。中学生のころ、部活からの帰り道、夜空に浮かぶおおいぬ座のシリウスの美しさに釘付けになった。星空に魅せられ、高校では星座観測の合宿や文化祭でのプラネタリウム解説に打ち込んだ。あの美しさを忘れられず、宇宙劇場に就職。約30年間、解説員から館長まで務めた。

2018年に退職すると、同じ時期に辞めた学芸員の高橋洋子さん(45)と、私設プラネタリウム「星と宇宙のミニ博物館 青星」を開設した。上尾市やさいたま市を転々としたが、コロナ禍の影響で22年5月に閉館した。

現在は県内を中心に、各地の保育園や公民館、コミュニ

ティーセンターで出張プラネタリウムを行う。直径3mほどの折りたたみドームを使用するため、6畳間ほどの広さでも楽しむことができる。観客との距離の近さも魅力だ。

「私が生まれた日の空を見せて」「ずっと昔の時代はどんな空だったの」。そんな一人一人の要望にあわせた解説を心がける。また、星空だけでなく、星にまつわる神話の紙芝居を投影するなど幅広い層への工夫も凝らしている。

夜空が明るくなり、都会では建物で視界も限られ、きれいな星を見ることができない場所は今も少なくなっている。それでも「星って、街中でも思ったより見えるんですよ」。どんな場所に住んでも夜空への興味を持ち続けてもらいたいと願う。「だからこそ、どこでもプラネタリウムを楽しめる環境を提供し続けたいですね」

(恒川隼)

